

11月11日（火）に会員校2校合同による初めての特別授業（栃木県の助成事業）が行われ、当連合会も企画・実施に協力しました。

当連合会の会員校である、宇都宮市内の「宇都宮情報ITクリエイター専門学校（大原学園宇都宮校）とオリオンIT専門学校の全学生（約270名）を対象にした特別授業（90分）が、栃木県総合文化センターサブホールで初めて開催されました。

授業は、「ロボットのポテンシャルの引き出し方」をテーマに、地元企業の「カワダロボティクス株式会社」の影山雅和氏<sup>かげやまさかず</sup>を講師にお招きし、人型ロボットと言われる「ヒューマノイドロボット」の開発経過や、企業内での活用事例などを映像も使いながらわかりやすく説明いただきました。また、ステージ上で自社のヒューマノイドロボットNEXTAGE（ネクステージ）を実際に操作して、用紙にスタンプを捺印したり、ボールペンで署名するなどの細かい動きを観察することができました。

参加した学生は終始熱心に聞き入り、学生から寄せられた質問に影山氏は一つひとつ丁寧に応えていただきました。授業後の学生へのアンケートでも、「普段の授業では味わえない企業の開発経過や実際のプログラミング方法を知ることができた」などの回答があり、普段の授業では得られない内容に多くの学生が満足していました。

今回の特別授業は、専門学校等で学ぶ学生が、より高度な実習や実技指導を受けられるよう、栃木県が令和5年度から実施している「とちぎ職業人材サポート助成事業」（交付条件：講師謝金、旅費の2／3 施設利用料、材料費、機器リース・レンタル料の1／2 助成額上限100万円）に採択され、経費の一部支援を受けました。

この助成事業を活用して、学生の技術力や技術習得意欲の更なる向上とともに、他校生との合同授業を経験させたいという2校の学校長の思いが一致し、初めての取り組みとして実現しました。当連合会にも協力要請があったことから、県への助成金申請等の手続きや講師への打診など授業実施に向けた支援を行いました。



授業前、学生に挨拶するオリオン  
I T専門学校の石川理事長兼校長



サブホールは2校の学生でいっぱい



開発経過や導入事例を紹介する影山講師  
左はヒューノイドロボットNEXTAGE



講師の説明に熱心に聞き入る学生たち



授業後に感想と講師への謝辞を述べる  
大原学園宇都宮校の高橋校長



「人と共存するヒューノイドロボットの未来  
予想図」を前に講師陣と運営スタッフの先生方